

目次 Contents

- 3 キプロス共和国のホストタウンになりました
- 4 保健便り
- 7 まちの話題
- 10 レッツスポーツ
- 12 環境トピックス
- 13 生涯学習だより
- 14 新・下野市風土記
- 15 下野市観光フォトコンテスト
- 16 障がい福祉瓦版
- 17 国民年金だより
- 18 図書館だより
- 19 暮らしの情報
- 30 7月のカレンダー
- 31 国際交流員カロリンのコラム
- 32 イベントカレンダー

今月の表紙

ふれあい館の隣のカンピくん

今月の表紙は、三王山の南河内第2配水場の配水塔の壁に登場した「カンピくん」です。

高さ約39メートルの配水塔に描かれたカンピくんは、全長7.6メートルで、完成までに約4か月かかりました。使用された塗料は約100キログラム、職人さんが手塗りで描いたそうです。

同配水場は、温水プールやレストランなどが入った複合施設ふれあい館や、キャンプ場とドッ

グランが利用できる三王山ふれあい公園と隣接しており、巨大なカンピくんが、施設を利用する皆さまをお出迎えします。また、日没から午後9時までは、ライトアップも行っています。

長引く外出自粛による運動不足を解消するため、カンピくんの愛らしいイラストを眺めながら、三王山ふれあい公園でウォーキングなどしてみてもいかがでしょうか。

今月の何の日

7月16日 駅弁記念日

1885（明治18）年のこの日に、日本初の駅弁が発売されたことに由来しています（諸説あり）。同日開業した宇都宮駅で、握り飯2個とたくあんを竹の皮に包んだものが5銭で販売されました。

1889（明治22）年には、岡山県の姫路駅で幕の内の駅弁が発売されました。二重の折詰で、上には鯛の塩焼き、だし巻き卵、焼きかまぼこ、伊達巻、栗きんとん、ごぼうの煮つけや香の物など13種類のおかずが、下には白飯が入って、12銭（今の価格で、およそ1600円）でした。

今や全国で2,000種類以上あると言われている日本の駅弁は、季節折々の食材や地元の名物が彩り鮮やかに詰め込まれ、まるで宝箱のようです。

では、海外の「駅弁」事情はどうでしょうか。

台湾の駅では、排骨飯（スペアリブを白飯にのせた料理）の弁当が一番の定番です。他にもいろいろな弁当がありますが、日本円で200円～400円程度とリーズナブル。温かい状態で販売されます。

タイでは車内販売が盛んで、弁当や軽食、飲み物、果物などを持った売り子が、車内を回ります。

一方、ドイツの列車は、食堂車はあるものの高価でありあまり利用されず、自分で作ったサンドイッチ等を持ち込んで食べるのが一般的だそうです。

駅弁であれ、果物やサンドイッチであれ、列車の中で食べるお弁当は、味わうごとに旅の思い出も深まる気がする、ちょっと特別な味です。

■人口と世帯（6月1日現在）

人口／60,265人（+49）、男性／30,003人（+27）、女性／30,262人（+22）、世帯数／24,621帯（+38）

下野市公式
ツイッター

市ではホームページの新着情報や、災害発生時の避難場所などの情報配信を行います。右のQRコードからアクセスできます。

下野市公式アカウント @city_shimotsuke

